

悪性胸膜中皮腫におけるMMP発現と細胞増殖関連分子発現との関連に関する免疫組織学的検討

【はじめに】

近年、腫瘍の発生・進展、炎症性疾患での組織破壊や繊維化、再生医学分野などで組織内微小環境の重要性が注目されており、細胞外マトリクスを分解する酵素であるMMP(マトリクスメタロプロテアーゼ)、uPA(ウロキナーゼ)は悪性腫瘍の増殖・転移・血管新生に強く関与していることが報告されました。悪性胸膜中皮腫は局所浸潤力の強い腫瘍であり、これまでMMP、uPAと浸潤、悪性度との関連が報告されています。またその一方で、悪性胸膜中皮腫においてHGF産生の増加やc-Met発現の増加、PI3-K/AKT経路の活性化も報告されp16、EGFR、VEGFの発現は悪性胸膜中皮腫の予後因子として報告されています。

【研究内容】

当九州大学第二外科において1996年から2009年まで悪性胸膜中皮腫を切除・生検した方を対象に切除・生検された悪性胸膜中皮腫の病変を使って、細胞外マトリクスプロテアーゼと細胞増殖関連分子を同定する染色を行い、これらのタンパク質の出現割合を測定します。

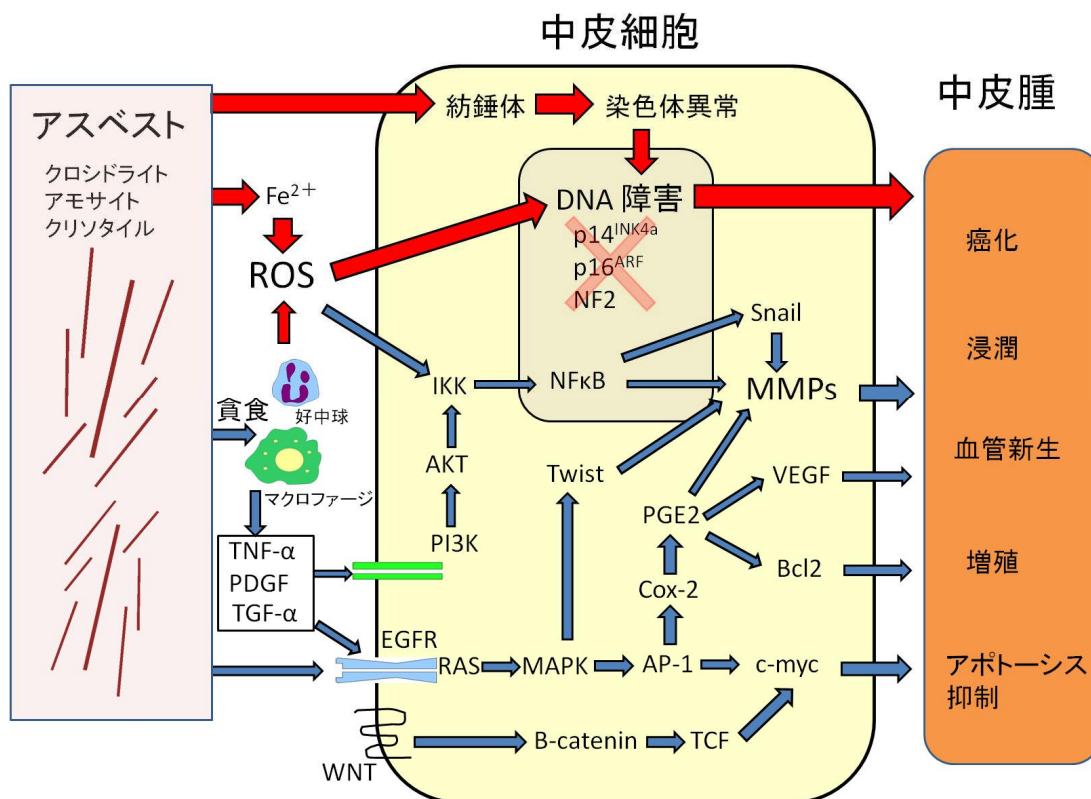
この染色の結果と患者さんの背景を比較し、細胞外マトリクスプロテアーゼ発現と細胞増殖関連分子が悪性胸膜中皮腫においてどういった関係を持つのか、考察します。

【研究期間】

研究を行う期間は2012年までと考えております。

【医学上の貢献】

この研究により悪性胸膜中皮腫における細胞外マトリクスプロテアーゼ発現と細胞増殖関連分子発現と臨床病理学的因子および予後との関連が示唆されれば、などが明らかとなり、医学上の貢献はあるものと考えます。



【患者さんの個人情報の管理について】

本研究の実施過程及びその結果の公表(学会や論文等)の際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。もし対象者となることを希望されない方は、右記連絡先までご連絡下さい。

【研究機関・組織】

九州大学大学院 消化器・総合外科(第二外科)

教授 前原 喜彦

准教授 矢野 篤次郎

助教 庄司 文裕

医員 波呂 祥

連絡先: 〒812-8582 福岡市東区馬出3-1-1

Tel 092-642-5466

前原 喜彦